

## 1月 ゆきぐみ クラスだより



子どもたち、先生、実習の先生、保護者ボランティアの皆様、たくさんの人の力が結集し、ビオトープの水路が全面補修出来ました。使った土の量はおよそ8トン。一輪車やバケツでせっせと運びました。子どもたちも、土を運んだり、水路に敷き詰める石を集めたりしました。



以前作ったコンポストには、子どもたちが園庭で集めた落ち葉がいっぱい。2週間に一回程度かき混ぜていますが、「葉っぱのままで変わってないな」「春に畑に（肥料として）使えるかな？」と心配しながら、変化を見守っています。



水路全てに水が行き渡りました。濁った水を見て、メダカは大丈夫かと急いで大池へ。寒くてメダカは、奥深く。



数日経ち、最初は濁っていた水も、次第に澄んでいくのが分かりました。

そして、大寒の日を迎えぐんと気温が下がったある日、子どもたちは昨年の様子を思い返し、「朝一番にビオトープに行こう！」と元気に出発。

「ほら、やっぱり凍ってる」  
園内でビオトープが一番寒くなることを知っている子どもたち。  
大池は見事に真っ白。





保育室に戻ると、氷作りが始まりました。

バケツにお皿、牛乳パック。

「平たいお盆の方が凍りやすいかも」「お鍋の方が冷たくなるんじゃない？」

どうしたら氷ができるか、友だちと考えを出し合って、様々な容器を使っての氷作りとなりました。

卵パックは、上下を分割して水を入れました。「氷が出来たら、ひっつけて卵の形に戻したい」「絵の具で色もつけて、カラフル卵にしたいね」と夢が膨らみます。

残念ながら、凍るほどの気温にはならず、今回のチャレンジは失敗となりました。

今年は暖冬。次の機会はやって来るのでしょうか？